

【愛甲小学校】説明会における質問・意見等の概要

1 参加人数

日にち	会場	時間	参加人数
令和4年11月19日(土)	愛甲小学校体育館	10時～	22人
		14時～	20人
		17時～	0人
		合計	42人

2 意見提出用紙による意見等提出件数

提出件数	2件
------	----

3 質問・意見の概要

○…質問 ●…意見・要望 △…説明会后、意見提出用紙等で提出された質問等

→…質問に対する回答

※同趣旨の質問や意見については、とりまとめて記載しています。

※「質問」については、市の回答を併せて記載しています。「意見・要望」及び「説明会后、意見提出用紙等で提出された質問等」については、今後の取組の参考とさせていただきます、市の回答は記載していません。

【質問】

(取組の考え方・進め方・スケジュール)

○ 統廃合が行われる場合、どのようなスケジュールで進んでいくのか。

→ 説明資料33ページに今後のスケジュールの目安を記載しています。年明けのアンケート調査の結果を踏まえて、来年度実施する意見交換会では、市の基本的な考え方をお示しする予定です。仮に、統廃合を実施する場合は、地域検討組織による検討等を含めて、最短で令和9年度に実施する見込みとなります。方策の実施時期については、様々な立場からの御意見があることが想定されますので、皆様の御意見を丁寧に伺いながら、検討を進めていきたいと考えています。

○ 今後の方向性について、統廃合が実施されるのかどうか、先が見通せない状況は不安なので、教育委員会の中で考えている検討案をいくつか提示してほしい。

→ 適正規模・適正配置の取組は、統廃合を前提として行っているものではありません。

ません。また、この説明会では、まず皆様に市の取組の内容や各地域の学校の現状等を知っていただくことを趣旨として開催させていただいています。今後、年明けに実施を予定しているアンケート調査の結果を踏まえて、市の考え方を整理・検討した上で、意見交換会の際には市としての方向性をお示したいと考えています。

○ 説明資料 19 ページに記載されている当該年度から 9 年後の「当該年度」とは、いつのことを指しているのか。

→ 令和 3 年度に市立小・中学校の適正規模・適正配置に関する基本方針を策定し、そこから検討を始めていますので、今回の取組については、令和 3 年度時点のデータを用いて検討を進めています。

(教育環境)

○ 説明資料 28 ページに記載している施設の再整備時期について、施設更新は、新たな校舎に建て替えるということで、大規模修繕は、現状の校舎を維持したまま、補修工事等を行うという認識で良いか。

→ 御質問いただいたとおりです。施設更新は建て替えを意味しています。東名中学校は、令和 11 年度に耐用年数を迎えるため、南棟の建て替えが必要になります。また、愛甲小学校及び玉川小学校は、適切な時期に施設の長寿命化を図るための大規模修繕を実施した上で施設を 80 年使用していくという考え方です。

(その他)

○ マンションの建設が進んでいる地域は、児童・生徒数の増加が見込めるので、マンションの建設を誘致するような都市計画を考えたかどうか。

→ まちづくりの観点については、説明資料 17 ページのとおり、「市都市計画マスタープラン」や「市コンパクト・プラス・ネットワーク推進計画」の中で、それぞれの地域の位置付けや将来都市像などをお示ししています。こうした計画との整合性を図りながら取組を進めていきたいと考えています。

○ 説明資料 32 ページの通学区域制度の弾力的運用を検討する地域の中に、南毛利地域の東名中学校が記載されているが、その理由として令和 22 年度の児童・生徒数が、令和 12 年度と比べ増加の見込みと記載されているが、これはどのような根拠に基づくものか。また、通学区域制度の弾力的運用とは具体的にはどのような内容か。

→ 説明資料 26 ページに記載していますが、今後の推計値では、東名中学校の

生徒数は令和 12 年時点では 170 人、令和 22 年には 176 人となることを見込んでいます。これは本市の将来人口を推計している「厚木市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」における推計値に基づき算出しており、南毛利南地区の年少人口については減少せずに維持することを見込んでいます。

また、通学区域制度の弾力的運用は、説明資料 15 ページに記載しているとおり、適正規模の方策の一つであり、厚木市では一部区域における学校選択制度と小規模特認校制度を実施しています。東名中学校で実施する可能性がある方策としては、現在、玉川小学校で実施している小規模特認校制度が考えられます。この制度は、地域の特色をいかした魅力的な取組をする学校について、通学区域に限定せずに市内どこからでも通学できる制度です。このような取組を実施することにより、学校規模を維持していくという考え方になります。

【意見】

(取組の考え方・進め方・スケジュール)

- 地域コミュニティとの関係では、厚木市は、小学校の校数当たりの人口が約 1 万人程度であり、この割合は理想的な数字だと思うので、統廃合の検討を進めるのではなく、現状を維持する方法を考えてほしい。また、1 学級当たりの人数を 25～30 人にするにより、落ち着いた教育環境を確保することができるので、現状の学校を維持しつつ、学級規模を小さくしていくという方策を取ってほしい。

- 学校は、地域コミュニティの中心的な役割を担っているので、アンケート調査については、児童・生徒保護者だけでなく、該当する地域の住民も対象としてほしい。

(教育環境)

- 説明資料 17 ページ記載の財源について、約 422 億円の財源が不足する見込みとなっているが、足りない財源は他から持ってくれば良いと思う。世界の国では、20 人学級や 25 人学級が増えてきているので、統廃合する必要はなく、現状のまま続けていく方が良い。

【意見提出用紙による意見等】

(取組の考え方・進め方・スケジュール)

- △ 小学生と中学生の子どもがいるが、今年の中学校の 1 学年は 54 人くらい。人数が少なく、他の中学校や私立中学校に進学する児童が増加しており、説明資料に記載されているとおりに生徒数が増加することは難しいのではないかと。

そうした場合、近隣の中学校との統合を検討した方が良いのではないか。

(教育環境)

- △ 小学生と中学生の子どもがいるが、部活動について、非常に選択肢が少ないことを懸念している。正直に言って部活動を理由に進学する学校を選択したので、統合もやむを得ないのではと感じている。